



伝統の技 脈々と



七沢を訪れると、いくつもの石材店を目にする。この地で鑿を打ち込む中山常夫さん(八)は、父・正義さん(七)の跡を継ぐ石材店の四代目だ。

かつてこの山々では、「七沢石」と呼ばれる石材が大量に産出された。その技の源流は、市内に散在する石造物から、江戸中期(一七〇〇年代前半)、信州・高遠出身の石工たちに求めることができる。

七沢石は加工のしやすい適度な硬さや、火に強いという利点などから、かまどや石うすなど人々の生活用品に多く用いられてきた。江戸時代以降、県内各地に残る石造物の多くが七沢石であることから、当時の石工たちのにぎわいがうかがえる。

しかし、風化しやすい石質や戦後の御影石の出現、人々の生活様式の変化などから、昭和四十年代初め(一九六〇年代後半)、正義さんの代で石の切り出しは終わりを告げている。

今では、ほとんどの工程が機械で加工される石材。中山さんは七沢の石材職人として、父親から受け継いだ技を、さらに若い世代にも伝えたいと、地域の職人たちとともに技を磨いているという。

いにしへの石工たちの技は、新たな世代にも脈々と受け継がれていく。

鑿を使い、七沢石の試し彫りをする中山常夫さん。「七沢の職人は鑿切りがうまいと評判だった」と傍らで見守る父・正義さん。

主な内容

- 2面 ... 4月から新制度に 上下水道料金一括納付制度
- 3面 ... タスキに託した熱き思い 県央厚木駅伝競走大会
- 7面 ... 春の火災予防運動



鐘ヶ嶽浅間神社の入り口を過ぎ、林道を登ると、いたるところで青みがかった灰色の岩肌に出合う。かつて半谷地区では「丁場」と呼ばれる石切り場から、良質の七沢石が大量に産出された。《交通》厚木バスセンター・広沢寺温泉行きバスで、鐘ヶ嶽下車徒歩約二十分。



あつぎ100選

LOOKING

「七沢石」丁場(半谷)